

## (コラム) 便利さの中で埋もれてしまう力

日頃は「子供の居場所づくり事業」にご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。

近頃は、スマホの普及や IT 技術等の進化によって、私たちの生活のあらゆる場面で便利さを実感するようになりました。例えば、ネットで商品を注文すると翌日には自宅に商品が届くようになり、カーナビも膨大な情報を集約して目的地までの最短ルートを分かりやすく詳細に案内してくれるようになりました。ただ釈然としないのは、便利さと反比例して、私たちが生きていく上で大切な何か失われているのでは？との不安を拭い去ることができないのです。

ある新聞社が行った調査では、「便利さと引き換えに自分が何かを失うと感じますか？」の問いに対して、「大いにある」との回答が 64%、「少しはある」が 28%で、9割以上の方が多かれ少なかれ不安を感じているという結果でした。恐らく今の大人の多くは急速な技術進化の過渡期を生きてきたため、かつてのアナログで苦労した事と、その反面、努力が報われた達成感も経験してきた事から、そのような危機意識を持っているのかも知れません。一方で今の子供たちは生まれた時からデジタルな物に囲まれて育っており、恐らく将来に同様の質問をしても、今の大人ほど危機意識を持たないかもしれませんね。

決して、便利さが一概に悪いと言うつもりはなく、医療やハンディをサポートする技術など、便利さによって人が救われている事もたくさんあります。ただ、中には“人が行う事の煩わしさ”を技術でカバーした代償として、本来身に付けなければならない“力”が失われているかもしれない。

例えば、お店に買い物に行けば店員との会話にコミュニケーション力を使います。カーナビが無ければ地図とにらめっこしつつ、想像力や判断力、記憶力を使います。でも逆にネットで買い物をすれば会話する必要は無く、カーナビの指示通りに運転すれば上記の力を使う必要がなくなります。要するに便利になった分、必要な力は別の方法で鍛える必要があるという事になるのではないのでしょうか。

これらの状況を子供たちの日常に置き換えたらどうでしょう？今はゲーム機やスマホなどの進化と普及で、顔を合わせて会話をしなくても遊べたり、保護者の詳細なナビゲートによって自分で判断する事なく最短ルートで目的を達成できたりする子も多く見られます。もしお子様が将来、社会に出た時に必要な力を付けさせたいのであれば、便利さのリスクと向き合い、場合によっては別の方法で力を補う機会を作る必要があります。

当事業では、そのような不安を拭い去るためにも敢えてアナログな環境を提供しています。さらに技術等の進化が進むことで、今後も私たちは便利さと上手く付き合っていく事が求められていくのではと考えておりますので、これからも当事業へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

放課後事業課 課長 中尾篤也

